

みなさん こんにちは！



ふくしま つよし
福島 剛
担当科・・・救急科、病理診断科
出身大学・・・宮崎大学
趣味・・・城、軽登山、バレーボール

自己PR

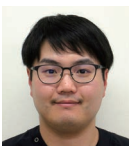
病理専門医で、脳神経外科専門医で、大学では脳腫瘍とがんの浸潤・転移機構を研究していました。当面は救急を中心に勤務させていただきます。人間愛を意識しつつ、科学的な診断、治療を志していきます。フットワークは良いと自負しています。よろしくお願いします。



ふくしま けんた
福嶋 研人
担当科・・・整形外科
出身大学・・・宮崎大学
趣味・・・映画鑑賞・料理

自己PR

4月から赴任してまいりました。宮崎市出身です。地域の皆さんのお役にたてるよう精一杯がんばります。



さかもと りゅういち
坂本 竜一
担当科・・・リハビリテーション科
出身大学・・・宮崎大学
趣味・・・釣り

自己PR

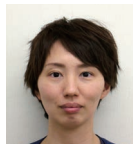
2025年4月より潤和会記念病院で勤務させていただいています。まだ医師として若輩者ではありますが、患者さん・ご家族に寄り添い、機能や活動性を向上させるリハビリテーション診療を行えるように精一杯努めます。よろしくお願いします。



ちようさ えつお
帖佐 悦男
担当科・・・リハビリテーション科・整形外科
出身大学・・・大分医科大学
趣味・・・旅行・スポーツ

自己PR

本年4月からリハビリテーション科・整形外科診療を担当します。シニアですがロコモではないと信じてますので、フットワーク軽く地域の皆様の健康に貢献できるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。



おがさわら なつき
小笠原 奈月
担当科・・・脳神経外科
出身大学・・・宮崎大学
趣味・・・手術

自己PR

脳神経外科専門医取り立ててまだまだ未熟者ですが、病院や地域の医療に貢献できるよう精一杯がんばります！



きゅうしま あらし
久嶋 嵐
担当科・・・泌尿器科
出身大学・・・宮崎大学
趣味・・・釣り

自己PR

精一杯頑張ります。よろしくお願いします。



きのした まゆ
木下 真由
担当科・・・脳神経内科
出身大学・・・藤田医科大学
趣味・・・旅行、グルメ

自己PR

宮崎に貢献できるよう、精一杯がんばります。

潤 うるおい

2025年
7月1日発行

No.
101



一般財団法人 潤和リハビリテーション振興財団

潤和会記念病院

病院長 濱川俊朗

〒880-2112 宮崎市大字小松1119番地

TEL0570-00-4755 FAX0985-47-8558

<https://www.junwakai.com/>

電子カルテ共有が拓く新しい医療

(一財)潤和リハビリテーション振興財団

代表理事 **大野 順子**

近年、医療を取り巻く環境は、目まぐるしく変化しています。その中で、当院は電子カルテ共有サービスの導入という大きな一步を踏み出しました。これは単なるシステム導入ではなく、患者さんにとって、より安全で質の高い医療を提供するための、そして医療従事者にとってより効率的で充実した医療活動を行うための、転換点となります。

このサービスが普及することで、患者さんの情報はリアルタイムで共有できるようになります。例えば救急搬送時には迅速な対応、的確な診断を可能にし、医療の質の向上に大きく貢献します。複数の医療機関で治療を受けている患者さんの病歴も瞬時に確認でき、あちこち問い合わせることなく治療方針の決定ができ、患者さんの負担を軽減できます。もちろん患者さんも、ご自身の情報を閲覧することができますので、ご自身の考えや希望を治療により反映しやすくなるでしょう。

さらに、カルテ共有は地域医療機関との連携を強化します。他の医療機関と迅速に情報交換することで、患者さんの転院や紹介がスムーズになり、切れ目のない医療提供ができます。地域のどこにいても患者さんにとってより安心・安全な医療環境が実現できるという点では、単なる情報共有を超えた、地域医療全体の質向上に繋がる重要な取り組みだと考えています。

技術革新が進む一方で、忘れてはならないのは「人の温もり」です。いくら高度なシステムが導入されても、患者さん一人ひとりに寄り添い、丁寧なコミュニケーションを図る優しさがなければ、それは真の医療とは言えません。当院では、電子カルテ共有サービスの導入によって省かれる連絡や連絡待ち、文書作成など

のさまざまな時間を、患者さんに向き合うこと、医療の質向上のための研鑽に充てるよう努めていきます。「人間愛」を胸に、患者さん中心の医療を提供するため、最先端の技術と、温もりあふれる医療の両立を目指します。

電子カルテ共有サービスは、その実現のための強力なツールです。そのツールを使いこなすための責任や技術に加え、人の温かさを感じられるような医療機関でありたいと思います。これからも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○宮崎大学を核とした本事業に参加します

当院では

電子カルテ情報共有サービス
モデル事業を実施しています

当院は、国が進める医療DXに積極的に取り組むことで、地域の医療機関等との情報連携を強化し、患者さんへのより良い医療の提供に努めています。その一環として電子カルテ情報共有サービスのモデル事業に参加しています。

本サービスで **できる4つのコト**

マイナ保険証の利用登録をする

医療情報提供に同意する

紹介状を持っていかなくて済む

マイナポータルで医療情報が分かる
※情報も、検査結果まで

電子カルテ情報共有サービスについてもっと詳しく知りたい方はこちら

厚生労働省

2025年 夏号 あとかき

皆さんは、ぎっくり腰になったことはありますか？ぎっくり腰と聞くと、ご高齢の方がなるイメージですが、どの年齢層でも起こりうるそうです。物を持ち上げた時や姿勢を変えた時、ふとした瞬間に腰に痛みが走った経験がある方は多いのではないのでしょうか。

私はまだ20代ですが、朝いつものように顔を洗っていると、突然腰がぐざつとなり痛みが走り、ぎっくり腰になりました。まだ顔に洗顔料が残っていましたが、立っているのもやつととてもじゃないけど前かがみにはなれず、腰痛はこんなにも辛いものなのだと痛感しました。それから2,3日は強い痛みが続き、2週間程たつと落ち着きました。

ぎっくり腰について調べてみると、原因には様々あるようですが、自分に最も心当たりがあったのは運動不足でした。腰回りの筋肉が衰えたり柔軟性が低下すると、腰を痛めやすくなるそうです。私は今全くといっていいほど運動習慣がありません。運動不足は、腰痛に限らず体に様々な悪影響を及ぼします。これから年を取るにつれてそれはより現れてくると思います。これを機に日頃から体を動かしたりストレッチをするようにして、これから少しでも長く健康に生活できるように心がけたいです。また、姿勢の悪さも腰の負担になるみたいなので、正しい姿勢を心がけて腰痛の再発を予防したいと思います。

手術の予定が決まったら禁煙しましょう

麻酔科 外山 祥子

喫煙習慣のある患者さんでは、全身麻酔・手術にともなう合併症や死亡の危険が高くなることが知られています。しかし、手術前に禁煙することによってさまざまな危険性を減らすことができます。短期間の禁煙でもある程度の効果があることがわかっていますが、手術前の禁煙期間は長ければ長い方がよく、4週間以上の禁煙が推奨されています。

手術の予定が決まったら

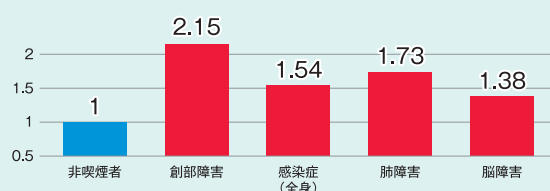
- 1.手術のために禁煙しますと宣言しましょう
- 2.タバコと灰皿を片づけましょう
- 3.タバコを勧められそうな状況は避けましょう
- 4.禁煙が難しそうなら、禁煙外来を紹介してもらいましょう



他の人が吸っているタバコの煙に含まれる有害物質を吸い込むことを受動喫煙といいます。受動喫煙も同じく悪影響があります。家族が手術を受ける場合は、家族みんなで禁煙しましょう。

喫煙と手術の関係

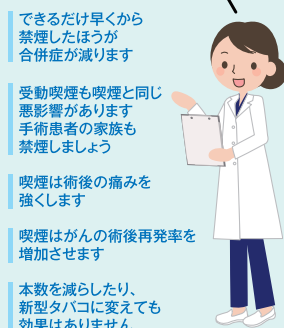
喫煙者は、非喫煙者より術後合併症が多くなります。



喫煙の危険性



術前禁煙について正しく理解しましょう



新型タバコが従来のタバコよりも健康に与える影響が少ないという科学的証拠はありません。

術前禁煙の意義

禁煙開始

禁煙後の変化

20分	血圧や脈拍が正常状態に戻る
12時間	血中の一酸化炭素が正常に戻る
24時間	血中のニコチンが消失する
72時間	呼吸がしやすくなる
2週間	心臓の機能が改善する
3週間	傷の治りにくさ・傷の感染しやすさが改善する
4週間	呼吸器合併症の起こりやすさが改善する
8週間	呼吸器合併症が非喫煙者と同等になる

予定手術では、**4週間以上前からの禁煙が望まれます。**

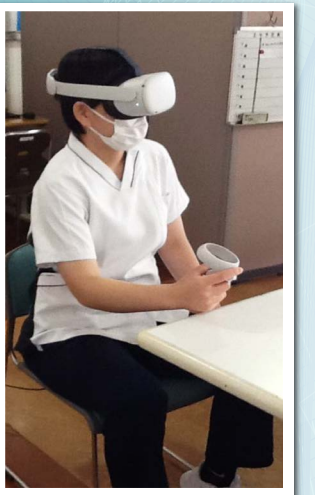
【リハビリテーション療法部より機器のご紹介】

リハビリテーション療法部 総療法士長 菅原 展寿

リハビリテーション療法部から【高次脳機能障がい】についてご紹介です。高次脳機能障がいの評価・訓練にVirtual Reality(以下:VR)を用いたリハビリ機器を導入しております。

まずは・・・高次脳機能障がいとは何でしょう？

高次脳機能とは、記憶、注意、言語、実行機能、視空間認知などの、高度な思考や判断を司る脳の働きを指します。これらは単独で機能するのではなく、相互に連携して複雑な認知活動を支えています。高次脳機能障がいとはこの認知活動が障害されることにより記憶、注意、言語、実行機能、視空間認知などが障害されることです。今回このVRを用いた高次脳機能障がいの評価・訓練について少しお話させていただきます。



VRを用いた高次脳機能障がいの評価

従来の紙と鉛筆によるテストや臨床医による観察に比べて、より現実的な状況を模擬体験し、患者の自然な行動を評価できる点が大きな利点です。紙面検査では評価できない広い空間を評価できます。

・現実的な状況の再現

日常生活における様々な場面(例えば、買い物、交通手段の利用、複雑な指示への従順など)を仮想現実空間で再現できるため、患者の機能障害をより自然な状況下で評価できます。

・客観的なデータ取得

VRシステムは患者の行動や反応を客観的に記録・分析できます。例えば、反応時間、エラー率、空間認知能力などを数値化し、客観的な評価指標として利用できます。

・多様な評価項目の網羅

VR技術を用いることで、注意、記憶、実行機能、空間認知能力、社会認知能力など、様々な高次脳機能を包括的に評価することができます。

・患者の自発的動作の向上

VRを用いた評価は、ゲーム感覚で実施できるため、患者の自発的動作を高めることができます。これは、特に認知機能が低下している患者にとって、協調性やモチベーションの向上に繋がります。

※VRを使用した評価は高次脳機能障がいの評価の一つです。お一人お一人症状が違いますので、全ての患者さんに適応になるとは限りません。お聞きになりたいことがあればリハスタッフにお尋ねください。